

新型インフルエンザについての専門家のご意見

押谷仁先生

東北大学 微生物学分野教授

新型インフルエンザワクチン接種回数の見直し

11月1日

編集責任 平成21年度保健所新型インフルエンザ対策情報発信班

非常事態のアメリカと日本

10月24日オバマ大統領が非常事態(National Emergency)を宣言しました。アメリカでは死者の累計が1000人を越え、一週間の死者もついに10月11日から17日の週で始めて100人を越えていました。昨夜出たCDCのWeekly Updateでも、また今週も死者が100人以上増えています。

http://www.who.int/csr/disease/swineflu/notes/briefing_20091030/en/index.html

超過死亡も引き続き顕著な増加を見えています。

<http://www.cdc.gov/flu/weekly/>

現在、世界でアメリカに次いで急速に感染が拡大しているのは残念ながら日本です。日本では(理由はよくわかりませんが)基礎疾患のない小児が入院患者・重症者の多くを占めています。日本も非常事態に準じた対応が求められる状況になっています。

押し切られた非常事態への対応

ワクチン接種回数をめぐる議論では、臨床医の「平時の原則論」がこの非常事態にどう対応すべきか考えて13歳以上への1回接種を検討してきた、専門家の諮問委員会および厚労省の考え方を押し切ってしまった感じがします。エビデンスに基づく対策をすることは非常に大切ですが、非常事態への危機管理では十分なエビデンスがないなかでの政策決定をしなくてはいけない場面も多くあります。また一人一人の患者に最善を尽くすという臨床医の視点も絶対に必要だと思いますし、そのために意見をきちんと聞くことは重要なのですが、ワクチンの絶対量が足りないというような制約のある中ではすべての人に最善を尽くすことはできなくなります。臨床医の意見も聞いた上で、最終的な決断は公衆衛生的に全体を見られる人がしなくてはいけないのではないのでしょうか。これからさらに厳しい決断を迫られる場面がでてくることが予想されます。今後も同じようなプロセスで意志決定をしていくと、どこかで大きな間違いを犯してしまう可能性があるのではと危惧されます。

急がれる小児への接種

このままのワクチン接種のスケジュールですと、小学校低学年でも12月中旬、小学校高学年では1月中旬までワクチン接種がずれ込むこととなります。この世代は2回接種をする必要があるということで大体のコンセンサスが得られていると思います。そうなると小児に十分な免疫が確保できるのは、小学校低学年で1月下旬以降、小学校高学年では2月にずれ込むこととなります。今の流行動態から判断すると、日本での重症者の大半を占めている小児の大多数はワクチンによ

る免疫がないままに大きな流行を迎えなくてはいけないことになる可能性が高いと考えられます。小児科外来への大きな負荷が各地で問題になっていますが、流行期と小児のワクチン接種時期が重なりさらなる小児科診療への負荷がかかることも予想されます。これから基礎疾患を持つ成人や妊婦での重症者が増える可能性は残されていますが、流行がかなり進んできた東京でも上記の入院患者の年齢分布等の傾向は全く変わっていません。アメリカでもこの数週間小児での死亡が急増していることも報告されています。ヨーロッパは2回接種を原則としていますが、多くの国でワクチンが相当量すでに確保されており、流行の立ち上がりもまだそれほどではないヨーロッパとは、かなり違う状況のなかでアメリカ・日本は政策決定をしないといけない状況におかれています。そういった観点からもう一度ワクチン接種のあり方を考えてみる必要があると私は考えています。

成人の接種回数見直しと現場への説明を

昨日 WHO が 10 歳以上では原則として 1 回接種とすべきという勧告を出しています。

http://www.who.int/csr/disease/swineflu/notes/briefing_20091030/en/index.html

これで当初の諮問委員会の結論の妥当性が裏付けられたと思います。政府はこの勧告を受け早急に成人には 1 回接種とし、できるだけ早く日本で重症者の多発している小児へのワクチン接種を進めるべきだと考えます。

また、臨床現場はワクチン供給をめぐって非常に混乱しており、特に小児科の先生達は急速に増える患者に対応しながら、一向にはっきりしない供給計画のもとでワクチン接種計画を考えなくてはいけないという状況に追い込まれています。現場の医師が患者から「自分らだけワクチンを接種してなぜ患者は後回しなのか」というような非難を受けているということも各地で聞きます。こういうときにこそ今のワクチン供給の状況や接種のあり方について、国民にきちんと説明するのが政治家の役割だと思えます。